The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	中国におけるアフリカ人学生の留学動機、生活課題、就職意識 ： 厦門大学の英語コースを事例として
Author(s)	羅, 方舟
Citation	未来共創. 2020, 7, p. 296-314
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/76162
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

報告

中国におけるアフリカ人学生の留学動機、生活課題、就職意識

厦門大学の英語コースを事例として

羅 方舟

目次

1. 研究背景
2. 先行研究
3. 研究目的
4. フィールド調査概要
   4.1 調査地
   4.2 調査方法
   4.3 質問項目
5. 調査結果
   5.1 留学経緯
   5.2 留学動機
   5.3 生活課題
   5.4 就職意識
6. 本調査の課題

キーワード

アフリカ人留学生
留学動機
生活課題
就職意識

1. 研究背景

2016年時点で、世界全体の全留学生の約10%がアフリカ人であり、今後十年間、グローバルで加速する人口の老齢化と少子化により、全体的に留学生人数の伸びは鈍化することが指摘されているが、若年層の人口増加は顕著であるアフリカは例外である（British Council 2018）。アフリカ人留学生の受け入れ国として、中国はすでにアメリカを超えてフランスに次いで二番目に位置づけられる。2016年時、アフリカ人留学生数をみると、フランスは102,941人で一番多く、中国は61,594人で二番目、アメリカは37,735人で三番目である（中国教育部 2016）。こ

大阪大学大学院人間科学研究科修士課程；luofangzhou2018@yahoo.co.jp

表1　中国における留学生の概況

大陸	2007年			2012年			2017年		
	総数と割合（%）	奨学金生の数と割合（%）	各大陸別に見た奨学金生の割合（%）	総数と割合（%）	奨学金生の数と割合（%）	各大陸別に見た奨学金生の割合（%）	総数と割合（%）	奨学金生の数と割合（%）	各大陸別に見た奨学金生の割合（%）
Asia	141689（72.5）	4171（41.1）	2.9	207555（63.2）	15434（53.6）	7.4	293222（59.9）	32871（56.1）	11.2
Europe	26339（13.5）	2107（20.8）	8.0	54453（16.6）	3906（13.6）	7.2	75064（15.4）	8918（15.2）	11.8
Africa	5915（3.0）	2733（26.9）	46.2	27052（8.2）	6717（23.3）	24.8	74244（15.1）	11583（19.8）	15.6
America	19673（10.1）	954（9.4）	4.8	34882（10.7）	2212（7.8）	6.3	39203（8.0）	4469（7.6）	11.4
Oceania	1887（0.9）	186（1.8）	9.9	4388（1.3）	499（1.7）	11.4	7439（1.6）	731（1.3）	9.8
合計	195503（100）	10151（100）	5.2	328330（100）	28768（100）	8.8	489172（100）	58572（100）	12.0

出典：「来华留学生简明统计」による筆者作成

れらの留学先の中で、フランスを代表とするフランス語圏とアメリカを代表とする英語圏に育った若者は、それぞれフランス語と英語のネイティブスピーカーとして、自身の留学選択とつながりやすいが、母語が通じない中国におけるアフリカ人の留学実態がフランス語圏と英語圏の留学生とは異なると言える。

中国の留学生の送り出し国としての面に焦点を当てて中国人留学生を対象とした研究がされているが、留学生の受け入れ国としての面に注目し、中国における留学生を対象とした研究が不足している（Jiani 2017）。留学生統計からみると、2016年時点で、中国は442,773人の留学生を受け入れ、総人数がアジアの国の中で一番多く、すべての国の中では二番目に位置づけられる。それに対し、アメリカにおける留学生数は1,078,822人で一番目、イギリスにおける留学生数は432,001人で三番目に位置づけられる（中国教育部 2016）。また、中国教育部が

表2　中国におけるアフリカ人留学生数の国別統計（top10）

2007年			2012年			2017年		
国別	総数	奨学金生の数と割合（%）	国別	総数	奨学金生の数と割合（%）	国別	総数	奨学金生の数と割合（%）
Tanzania	374	175 (46.8)	Ghana	2317	222 (9.6)	Ghana	6527	657 (10.1)
Guinea-Bissau	326	32 (9.8)	Nigeria	1669	206 (12.3)	Nigeria	5774	446 (7.7)
Ghana	298	37 (12.4)	Mauritius	1293	197 (15.2)	Ethiopia	4883	514 (10.5)
Nigeria	268	63 (23.5)	Somalia	1141	89 (7.8)	Zimbabwe	4607	235 (5.1)
Sultan	261	92 (35.2)	Kenya	1129	306 (27.1)	Tanzania	4488	644 (14.3)
Algeria	252	65 (25.8)	Sudan	1066	386 (36.2)	Zambia	3940	374 (9.5)
Mauritius	238	77 (32.4)	Cameroon	1001	179 (17.9)	Cameroon	3050	298 (9.8)
Kenya	224	88 (39.3)	Ethiopia	933	204 (21.9)	Sudan	2857	768 (26.9)
Zambia	191	120 (62.8)	Tanzania	873	307 (35.2)	South Africa	2663	167 (6.3)
Cameroon	191	104 (54.5)	Congo	861	190 (22.1)	Kenya	2508	490 (19.5)

出典：「来华留学生简明统计」による筆者作成

出版した「来华留学生简明统计」によると、2017年時点で、中国における留学生総数が2007年時点より2.5倍になった。その中で、アフリカ人留学生数は2007年時点より12.5倍になった。つまり、アフリカ人留学生の増加の幅が全体より五倍である。また、奨学金受給状況に着目すれば、全体の受給人数と割合は増加している。その中で、アフリカ人留学生の受給割合が減少しているが、過去十年間の各大陸別奨学金生割合からみると、他の地域より、アフリカ人留学生の奨学金割合が一番高いことは判断できる（表1）。以上より、中国における留学生の中で、奨学金受給者としてのアフリカ人留学生に焦点を当てる必要があると考えられる。国別の留学生数からみると、2012年時点以降、アフリカ人留学生の中で、

ガーナ人が一番目であり、ナイジェリア人が二番目に位置づけられる（表2）。

中国政府は、2018年に第7回（3年ごとに）中国アフリカ協力フォーラム（FOCAC）を開催し、「一帯一路」[1]政策をめぐり、アフリカの37カ国と政府間協定を結んで、インフラストラクチャー整備、貿易や教育など各方面で協力を深化することを宣言した。教育の面で、50,000人のアフリカ人留学生に政府奨学金を提供する支援戦略が確立された。2012年の第5回中国アフリカ協力フォーラムで計画された5,500人の奨学金生目標と2015年の第6回協力フォーラムで計画された30,000人奨学金生目標と比べ、アフリカ人留学生に対して中国政府が提供する奨学金数は持続的に増加している。

留学生奨学金からみると、中国は様々な奨学金制度を設立している。具体的には、中央政府のレベルで、両国間の関係により、中国と関係国政府と締結した教育協力の協定によって提供される国家政府奨学金がある。また、ユネスコを通じて提供される奨学金は、発展途上国の学生や研究者に対し、中国での学習と研究を支援している。地方政府レベルで、省や市などの地方政府は留学生のために、地方に所属する大学を介して奨学金を提供している。独立した教育機関レベルでは、孔子学院[2]（Confucius Institutes）で孔子学院奨学金が設立され、中国語を勉強する外国人学生、研究者及び中国語教師を支援している。他に、大学レベルで、大学ごとに留学生を支援する奨学金プロジェクトも存在する。

2. 先行研究

中国における留学生全体を対象とした研究はなされているが、アフリカ人留学生を対象とした研究は比較的に少ない。その中でも、マクロな視点から政府の支援政策、アフリカ人学生留学の動向を量的に分析した研究が相対的に多い。具体的には、中国におけるアフリカ人学生の留学状況をめぐって三十年間の歴史を整理し、留学生数の変化を分析し、留学の現状を把握した上で、政府の支援政策と留学生の留学選択との関連性、中国の社会変容にアフリカ人留学生が与えた影響を究明した研究がある（李・瀋 2017）。また、中国におけるアフリカ人留学生の現状に着目し、留学生全体の規模の拡大、留学生の背景の多様化、留学後の就職のための留学選択や中国語を中心にした専門選択などの留学実態を明らかにした研究もある（段 2015）。

ミクロな視点から、個々のアフリカ人留学生を対象とした質的な研究も数篇あ

る程度である。主に異文化適応に着目し、中国の大学におけるアフリカ人学生留学中の文化適応度を考察している。中国とアフリカの間に、自然環境や社会文脈など各方面で大きい差異が存在しているため、中国という新しい環境に入り込んだ留学生はどれほど適応しているかをリサーチクエスチョンとし、対象者の身体、心理、コミュニケーション、言語習得や文化適応などに注目している研究として、羅（2015）、呉（2018）、陳・龚（2018）、万（2015）、Akhtar（2015）の研究が挙げられる。これらの研究は、中国の大学を中心に、質問調査やインタビュー調査を実施しており、アフリカ人留学生の異文化適応度を分析している。結論として、留学年数と中国語の習得状況によって文化適応度が異なる。留学年数が長い、中国語レベルが高いほど、文化適応度が高くなる。しかし、異文化適応を注目している一方で、アフリカ人留学生の視点から、留学の動機づけ、留学中の課題や留学後の進路選択など留学実態がまだ不透明な状態であり、質的なケース・スタディは十分だとは言えない。また、同じアフリカ人留学生の中でも、留学先、奨学金受給状況や履修コースによって留学実態が異なる可能性も存在するため、留学生を違うグループに分けて分析し、留学実態をより明らかにする必要があるのではないかと考えられる。

3. 研究目的

本研究では、中国の大学におけるアフリカ人留学生に対する質的な調査を行う。高等教育レベルで、留学生支援策の一環として、奨学金制度のメカニズムを明らかにする。アフリカ人留学生の一部として、英語コースにおける留学生の視点から、留学の経緯を明らかにした上で、留学の動機づけ、留学生活の課題と留学の影響を明らかにする。

リサーチクエスチョン

① 中国の大学におけるアフリカ人留学生は、なぜ英語コースを選択して中国に留学するか。また、留学中に各方面でどのような課題に直面しているか。

② 奨学金受給者として、アフリカ人留学生の視点から、英語コースを通じた中国への留学は、個人の就職意識にどのような影響を与えるか。

4. フィールド調査概要

4.1 調査地

写真 1. 厦門大学の正門

本研究は中国福建省の厦門市における厦門大学（Xiamen University）を調査地とした（写真1）。厦門市は海浜都市として、中国5つの経済特区の一つであり、海越しに台湾を望んでいる。厦門大学は国立大学である。2017年時点で、厦門大学の学生総数は4万人を超え、留学生は3,400人である（図1）。留学生数からみると、全国の2,879の大学の中で、17位に位置づけられる（来华留学生简明统计）。留学生課程として、中国語コースにおいては、24の学部課程、33の修士課程、30の博士課程が設立されている。それに対し、英語コースにおいては、学部課程がなく、9の修士課程と21の博士課程が設立されている。留学生奨学金に関しては、研究背景で述べた通り、提供側によって様々な制度が存在する。中央政府レベルで、「中国政府国別奨学金」、「中国政府研究奨学金」と「中国政府海洋奨学金」がある。地方政府レベルで、福建省政府が「福建省政府留学生奨学金」を設置している。大学レベルで、「厦門大学留学生奨学金」が存在する。孔子学院の国内における組織として、厦門大学では「孔子学院の南センター」が設立されたため、

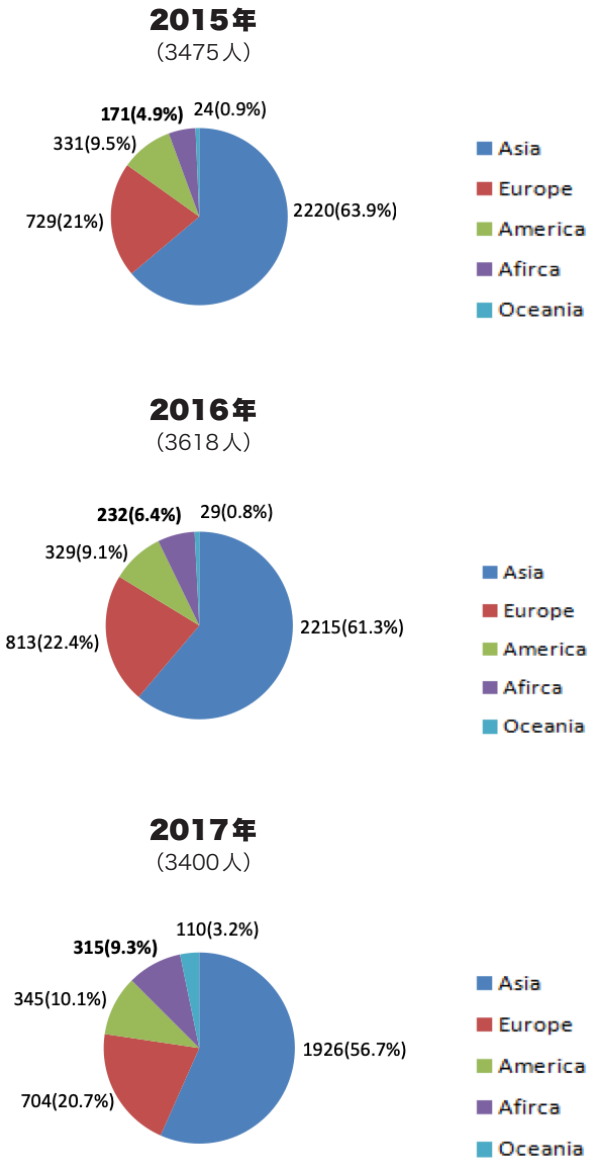

図1. 2015年—2017年厦門大学における各大陸の留学生数と割合

出典：大学から入手した資料より筆者作成https://admissions.xmu.edu.cn

「孔子学院奨学金」も設置されている。大学間交流として、海外の16の大学で孔子学院を設立している。その中で、アフリカの大学と連携するプロジェクトが存在している。現時点で、南アフリカのStellenbosch University とナイジェリアのNnamdi Azikiwe Universityの二つの大学が挙げられる。厦門大学における全体の留学生数からみると、アフリカ人留学生は相対的に少ないが、人数と割合も三年間で持続的に増加している（図1）。また、国別の留学生数を見ると、厦門大学では、アフリカ人留学生の中でナイジェリア人とガーナ人が相対的に多いことが判断できる（表3）。留学生の奨学金受給の状況から見ると、国家政府レベル奨学金受給者の中で、アフリカ人留学生の割合が高いが、福建省政府レベル奨学金と大学レベル奨学金の場合、アフリカ人留学生の割合が相対的に低い（表4から表8まで）。以上より、留学生数から見ると、厦門大学は中国の大学の中で上位に位置づけられる。また、キャンパスに孔子学院を設立し、トランスナショナル教育の面で活躍しているとは言える。留学生にとって複数の研究科で中国語コースと英語コースを含めて多様な留学選択がある。様々な奨学金システムが存在して異なる奨学金を受給している留学生が在籍している。先行研究では、厦門大学を調査地とした研究がある。具体的には、中国に留学する選択の意思決定の要因を中心に、厦門大学の海外教育学院に在籍する留学生を対象とし、質問調査を実施しており、留学生の家庭背景、教育背景、国家背景が要因であるという結論に辿り着いた（陳2007）。しかし、厦門大学ではアフリカ人留学生の人数と割合が持続的に増加している以上、アフリカ人留学生に焦点を当て、更なる研究を行う必要があると考えられる。

表3. 厦門大学2017年留学生数国別統計（top10）

国家	人数
India	417
Thailand	294
USA	253
Indonesia	174
UK	169
Korea	163
Bangladesh	147
Malaysia	111
Nigeria	96
Ghana	84

表4. 2017年と2018年両年度間政府奨学金アフリカ人留学生受給者

総受給者		116
アフリカ人受給者		46（39.7%）
国別	人数	課程
Ghana	27	博士 5 人、修士 22 人
Nigeria	10	博士 2 人、修士 8 人
Rwanda	3	修士 3 人
Kenya	2	修士 2 人
Somalia	1	修士 1 人
Liberia	1	修士 1 人
South Africa	1	修士 1 人
Morocco	1	修士 1 人

表5. 2017年と2018年両年度間政府海洋奨学金アフリカ人受留学生給者

総受給者		23
アフリカ人受給者		10（43.5%）
国別	人数	課程
Nigeria	5	修士 5 人
Ghana	2	博士 2 人
Egypt	2	博士 2 人
Algeria	1	修士 1 人

表6. 2017年と2018年両年度間孔子学院奨学金アフリカ人留学生受給者

総受給者		132
アフリカ人受給者		27（20.5%）
国別	人数	課程
Egypt	13	修士 13 人
Nigeria	7	修士 7 人
Sultan	3	修士 3 人
Ethiopia	2	修士 2 人
Cameroon	1	修士 1 人
Mozambique	1	修士 1 人

表7. 2017年と2018年両年度間厦門大学奨学金アフリカ人留学生受給者

総受給者		50
アフリカ人受給者		3（6%）
国別	人数	課程
Ghana	1	博士 1 人
Kenya	1	博士 1 人
Morocco	1	博士 1 人

表8. 2017年と2018年両年度間福建省政府奨学金アフリカ人受給者

総受給者		33
アフリカ人受給者		1（3%）
国別	人数	課程
Morocco	1	学部 1 人

表3 ～表8出典：大学から入手した資料より筆者作成 https://admissions.xmu.edu.cn

写真2. キャンパスの様子

4.2 調査方法

本研究のフィールド調査では、2019年9月14日から9月17日まで、厦門大学(写真2)の英語コースにおける3人のアフリカ人留学生 (写真3)に対する半構造化インタビューを行った (表9)。使用言語は英語と中国語である。大阪大学人間科学研究科研究倫理委員会によって倫理審査を受けており、許可の上で調査した。

写真3. インタビューの様子

表9. インタビュー対象者の属性

仮名	性別	国籍	年齢	専攻	奨学金	学籍	コース	留学期間
Tomas	男	Ghana	28	海洋法律	政府海洋奨学金	博士課程	英語	5年目
Hand	男	Ghana	33	経済	厦門大学奨学金	博士課程	英語	4年目
Linda	女	Rwanda	26	国際関係	政府奨学金	修士課程	英語	1年目

出典：筆者作成

4.3 質問項目

個人情報：

- 出身国、年齢、留学専攻、奨学金受給状況、留学期間、履修コースなどを聞き取る。

留学前（過去）：

- なぜ留学を考えたか。留学した経験があるか。
- なぜ中国を留学先として選んだのか。
- 留学する前に、中国語を勉強したことがあるか。どこで、どれぐらい勉強したか。
- 留学する前に、中国人の友達はいたか。
- 厦門大学を知ったきっかけは何か。
- どのようにして厦門大学を選定したか。
- どのようにして奨学金を申請したか。
- どのようにして留学の専攻を決めたか。
- 留学について、家族は賛成したか。
- 留学した後の計画を立てていたか。

留学中（現在）：

- 大学での授業はどうなっているか。それについて留学前に予想したことと違うか。
- 授業以外に、キャンパスでどのような活動（部活、サークルやアルバイトなど）に参加しているか。
- キャンパスの外で、どのような社会活動（アルバイトやボランティア活動など）に参加しているか。
- 他のアフリカ人留学生とどのように付き合っているか。
- 中国人学生とどのように付き合っているか。
- 他の地域から来た留学生とどのように付き合っているか。
- 留学してから、中国語はどれぐらい進歩できているか。それはなぜか。
- 生活の面で、特に困ったことがあるか。どう解決できたか。それについて、大学からの支援は存在するか。
- 文化に適応することが難しいと思ったことがあるか。
- 普段の生活でどのようなストレスを抱えているか。それとどう向き合ってい

るか。

留学後（将来）：

- 留学した後、進学／就職するか。それはなぜか。
- 大学の進路支援制度は存在するか。それを利用するか。
- 留学した後、帰国するか。中国に残るか。それとも、第三国に行くか。それはなぜか。
- 留学前に立てていた計画は変わったか。
- 留学を考える友達がいれば、中国に留学することを友達に勧めるか。

5. 調査結果

5.1 留学経緯

インタビュー対象者の三人は英語コースを履修している。受給した奨学金に関し、三人はそれぞれ政府奨学金、政府海洋奨学金と厦門大学留学生奨学金を受給している。専攻として、三人はそれぞれ経済、海洋法律と国際関係の専攻に所属している（表9）。インターネットやSNSの発展によって留学先の大学情報に簡単にアクセスできるが、インタビュー対象者全員は知り合いから大学に関する情報を得た。その中で、二人は留学経験者の友人から厦門大学を紹介してもらった。もう一人は大学時代、外国語学部における中国語の先生から厦門大学を紹介してもらった。選定プロセスとして、奨学金申請の専用サイトにアクセスし、個人情報を入力して書類をアップロードして審査を申し込む。大学側がそれに応じて書類審査を行い、最後に結果をサイトで公布する。申請手続きとして、事前に教授と連絡する必要がない。また、入学するための筆記試験と面接も不要であるため、便利な申請システムであると言える。要するに、国籍に限定されなく、中国国籍以外の国籍を持つ学生は自由に奨学金を申請することができる。一方、便利な申請システムが存在するため、奨学金をめぐって競争が激烈であることも判断できる。留学生の出身大学、在校成績、専攻や言語能力によって競争力が異なる。また、申請するには、費用がかかり、最大三つの大学を希望先として選べることから見れば、留学生にとって慎重な選択も必要であると考えられる。

5.2 留学動機

アメリカ、イギリスや日本などの先進国より、中国の奨学金は数が多くて相対的に受給しやすい。全額奨学金を受給すれば、学費の免除だけではなく、毎月の生活費や宿泊費も提供されているため、無償で教育を受けられる可能性が高い。経済的なストレスがなく、勉強や研究に集中できることは中国を留学先として選択した動機につながる。英語コースを応募した理由は、英語ネイティブスピーカーの場合、非英語ネイティブスピーカーより、言語能力は相対的に高いため、書類審査で競争力を高めて奨学金受給の可能性を高めることができる。

> "We like free education. I once got a 95% scholarship from an university in UK, but the left 5% was still too expensive for me. Life is so sweet and easy here because what I should do is just studying. I don't need care what I can eat today." –Hand

英語コースで履修すれば、入学した後、学業では言語問題がなく、卒業できる可能性も中国語コースより高い。一方で、中国語コースによるのではなく、普段の生活で中国語を習得するのは留学戦略の一つであると考えられる。また、家族関係に関しては、三人とも最初から家族に留学選択を支持されている。留学中にSNSを通じて定期的に家族とコミュニケーションをしている。つまり、家族の支持も留学の動機につながると考えられる。

5.3 生活課題

インタビュー対象者全員が中国に来る前に中国語を勉強した経験がないことから見ると、英語コースを履修するアフリカ人留学生は中国語能力が不足しているため、生活面で、特に英語が通じないキャンパスの外でいろいろな不便がある。

> "We have never learned Chinese before. After coming here, we have to bring our passport everywhere and get checked even though we did not know how to pronounce passport in Chinese. When we talk with Chinese people, we can't understand each other. But after 2 or 3 months, we begin to remember simple Chinese and things become OK." –Tomas, Linda and Hand.

また、大半の教員と留学生は英語の非ネイティブスピーカーであるため、コミュニケーションが難しい以上、教授言語は理解しにくく、学習環境の面で支障が存在する。しかし、先行研究で言及されたように、一定の時間が立てば中国語が進歩し、言語問題の改善によって文化適応度が高くなる（羅 2015）。また、学習環境に関しては、中国における留学期間によって学習環境に対する態度が変化する。留学期間が長くなると、学習環境への満足度が高くなる（Lwin 2017）。本調査の対象者も、三ヶ月ぐらいを過ごして最初の段階を乗り越えてから、学習環境に慣れてきてそれに対する満足度も高くなる。学習環境以外に、アフリカ人留学生と中国人学生の間に、知識共有（knowledge sharing）と意見交換（idea sharing）が学生間関係に与える影響を判明した研究がある（Jean 2017）。知識交換と意見交換が機能しないと、良好な関係を作ることは難しい。本調査で、英語コースにおいては、留学生だけ参加する授業の場合が多く、中国人学生と共に授業を参加する機会が少ないため、中国人学生と知識共有や意見交換の場が少なくなるリスクも存在する。

多くの中国人からみると、身近に黒色人種がいることにはまた慣れていないと言及した研究がある（李・瀋 2018）。本調査で発見したのは、多くの人が慣れていないことだけではなく、黒色人種に対する偏見を持ち、特にキャンパスの外で、社会的な受容度が低下している現状があるため、黒色人種が多数であるアフリカ人留学生は差別を受けることがよくある。その結果、アフリカ人留学生の中国語習得に対するモチベーションが低下し、心理的な不適応感が増加する課題は存在する。

> “On the bus, some people take photos of us without any request. Some kids call us black people, but call the white people Foreigners.” -Tomas and Linda
> “Chinese students are my brother in the campus, but outside the campus, people are not so friendly. At first, I had a strong aspiration to learn Chinese, but later I realize if I learn Chinese more, I will understand more dirty words from other people, so I choose not to learn Chinese more and it makes feel better.” –Hand

5.4 就職意識

中国とアフリカの関係について、中国のアフリカに対する貿易、投資の急増と中国企業のアフリカ進出に伴い、アフリカに中国語ブームが起こっていると言及した研究がある（李・澤村 2018）。また、アフリカ人学生にとって、留学を通じた中国語の習得は未来の就職に大きく役に立ち、就職の可能性を拡大すると分析した研究もある（段 2015）。本調査で、対象者の就職意識から見ると、中国語の習得によって就職の可能性を拡大することは期待されている。英語コースにおけるアフリカ人留学生は、授業で中国語を習得する機会がなく、代わりに普段の生活で中国語を習得することが可能であるが、習得成果は完全に本人次第であり、期待される効果が得られないリスクもあることが否定できない。また、対象者の視点から見れば、奨学金の受給により、留学中の費用が全額まかなわれた無償教育を通じて高学歴を取れば、教育達成によって起業など進路の可能性を拡大することは期待されている。

> “Before coming, I had maken a future plan which is doing my own bussiness in my country or other areas after graduating. And it has not changed after coming here.” –Tomas and Hand

しかし、就職選択の一つとして、中国で就職することは難しい。滞在許可を留学から就労に変更するのは非常に困難であり、多くの留学生が卒業してから中国で滞在できなくなると言及した研究がある（李・瀋 2018）。本調査で判明したのは、ビザ変更について、留学を直接に就労に変更するプロセスがなく、留学生は卒業してから3週間以内に、中国からの出国を要求される。中国の会社から就労許可をもらっても、一旦出国しなければならないように、煩雑なビザ申請のシステムが存在する。その結果、本調査の対象者が中国での就職を優先的な選択とはしていない。また、大学レベルで、留学生に対する学内支援が乏しい（Wen 2018）と言及した研究がある。進路支援として、本調査を行った厦門大学では、就活情報の提供、企業説明会など留学生のための就職支援制度はまだ存在していないことが判明した。留学生が中国で就職を考えた場合は、就職できるかどうかは完全に本人の能力と努力次第である。黒色人種が多数であるアフリカ人留学生は、社会的な差別問題を含め、中国で就職することはより難しいではないかと考えられる。

6. 本調査の課題

研究背景で、アフリカ人留学生の状況だけではなく、世界中の留学生全体の動向をより詳しく検討する必要がある。フィールド調査として、インタビュー対象者が少ないため、サンプル数の面で説得力が不足している。これからの調査で、インタビュー対象者を増やす一方、質問調査票を配布する方法も考えられる。本調査での英語コースにおけるアフリカ人留学生と比較するために、中国語コースを履修している留学生に対して調査を行う必要がある。英語コースと中国語コースに在籍するアフリカ人学生の留学実態の共通点と相違点を明らかにすることで、研究意義を拡大する可能性があると考えられる。また、厦門大学の留学生を事例としているが、留学地域によって留学実態が異なる可能性があり、研究意義を拡大するため、他の地域における留学生に対する調査も不可欠である。

注

1　2014年11月10日に北京市で開催されたアジア太平洋経済協力首脳会議で、習近平総書記が提唱した経済圏構想である。中国西部から中央アジアを経由してヨーロッパにつながる「シルクロード経済ベルト」(「一帯」の意味)と、中国沿岸部から東南アジア、スリランカ、アラビア半島の沿岸部、アフリカ東岸を結ぶ「21世紀海上シルクロード」(「一路」の意味)の二つの地域で、インフラストラクチャー整備、貿易促進、資金の往来を促進する計画である。

2　孔子学院(こうしがくいん)とは、中国が海外の大学などの教育機関と提携し、中国語や中国文化の教育及び宣伝、中国との友好関係醸成を目的に設立した中国政府の教育機関である。

参照文献

李霽・澤村信英
2018「ケニアにおける孔子学院の運営や役割.中国人ボランティア人学生のキャリアパスに着目して」『ボランティア学研究』8:115-127。

陳秀琼・龚晓芳
2018「来华非洲留学生跨文化学业适应调查与分析(中国におけるアフリカ人留学生学習適応度に関する考察)」『教育评论』:55-59。

陳奕容
2007「多重动因结构:留学生来华学习影响因素分析(中国に留学する要因に関する分析)」『厦门大学』:修士論文。

段勝峰
2015 「非洲来华留学生教育管窺:历史、发展与现状（中国におけるアフリカ人学生の留学の歴史、発展と現状）」『湖南社会学』：199-203。

羅夢雲
2015 「在华非洲留学生跨文化适应个案研究（中国におけるアフリカ人留学生の異文化適応に関するケース・スタディ）」『重庆高教研究』：62-65。

李安山・瀋暁雷
2018 「非洲留学生在中国:历史、现实与思考（中国におけるアフリカ人留学生の来中の歴史と現実に関する思考）」『西亚非洲』：61-89。

呉強
2018 「撒哈拉以南非洲来华留学生跨文化适应问题调查研究（中国におけるサブサハラアフリカ人留学生の異文化適応に関する調査）」『教育观察』：103-106。

万里明・王晨輝・周雪瑶
2015 「非洲留学生文化适应性调查（中国におけるアフリカ人留学生の異文化適応に関する調査）」『文化学刊』：153-156。

厦门大学国际学生招生网（厦門大学留学生募集専用サイト）
2018 https://admissions.xmu.edu.cn（2019/10/17アクセス）

中国教育部編
2017 「2007年—2017来华留学生简明统计」(「2007年—2017年中国留学生簡明統計 」）

中国教育部編
2018 「2018年来华留学生简明统计」(「2018年来中留学生簡明統計」）http://www.moe.gov.cn/jyb_xwfb/gzdt_gzdt/s5987/201904/t20190412_377692.html（2019/9/16アクセス）

中非合作论坛（中国アフリカ協力フォーラム）（FOCAC）
2018 https://focacsummit.mfa.gov.cn/chn/（2019/8/15アクセス）

British Council
2018 「International student mobility to 2027:Local investment, global outcomes」http://www.britishcouncil.org/contact/press/international-student-mobility-grow-slowly-2027（2019/10/28アクセス）

Gonondo, Jean
2017 Africa and China higher education cooperation: establishing knowledge sharing partnership between students. *Journal of Education and Practice* Vol.8:10.

Jiani, M A.
2017 Why and how international students choose Mainland China as a higher education study abroad destination. *Higher Education* 74(4):563-579.

Nadeem Akhtar, Cornelius B. Pratt and Shan Bo
2015 Factors in the cross-cultural adaptation of African students in Chinese universities. *Journal of Research in International Education* 14:98–113.

Thawdar Lwin, Sarfraz Aslam and PhoebeNaliaka Mukhale
2017 International students' perceptions of their Learning environment in graduateprograms at one normal university in China. *Journal of Education and Practice* Vol.8:9.

Wen Wen, Die Hu and Jie Hao
2018 International students' experiences in China:Does the planned reverse mobility work. *International Journal of Educational Development* 61:204–212.